

は じ め に

令和6年度は、多くの紛争を抱え国際的には不安定な状況が続き、令和7年には、貿易摩擦を超えた貿易戦争まで勃発しており、社会的に不安定な状況が続いています。そんな環境の中、我々小児保健関係者は、連携を取りながら未来を担うこども達のために、益々結束を高める必要があります。乳幼児健診に係る方々は、集団や個別健診など多様な形式を通じて新型コロナパンデミックを乗り切りました。そのような中でも本県においては、ほぼ全市町村の乳幼児健診のデータが整備されており、各市町村の状況を相互に比較、検討することが可能となり、乳幼児健診の標準化と質の向上に寄与しております。

国の政策は、母子保健データの収集と活用を目的に、乳幼児健診のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進しております。個々の問診データをAI等で分析することで、健診時に診察支援や保健指導支援が、DXで可能となります。また、予約制の導入により健診会場での待ち時間の短縮、診察・相談時間の確保などが期待され、参加者の皆様にやさしい、新しい形の健診が実現されることを期待しています。また当協会では、集団としての市町村毎のデータ分析が行えるよう、本誌以外にも健診データを当協会ホームページの「市町村マイページシステム」や「会員専用ページ」から利用できるようにしています。

さらに、1か月児健診・5歳児健診の導入実現に向けて当協会では、離島も含めた標準化された既存の乳幼児健診との連結も視野に、沖縄県のコンソーシアムを決し、その一員として取組んでおります。

今後とも皆様のご指導ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和7年7月

公益社団法人沖縄県小児保健協会長 宮城雅也